

色々な人に今回お世話になった事に感謝しています。

たった十一日間の九州縦断走り旅でしたが、その間、ここ迄に至る旧街道の……地図作成、スケジュール(宿泊等の予約)、励まし隊への依頼事項等々、準備に要した苦勞に頭が下がる思いでしたが、苦有り・楽しさ有りの「走り旅」でした。

たまたま励まし隊として、二十五日目の栃木県大田原から移動エイドを計画していました所、台風の影響で思うようにエイドも、走り仲間とのコミュニケーションも出来ず、歯がゆい思いを森塚さんにおつけ、二十八日目(日本橋)の途中から箱根の峠迄三日間、我ながら走れる、昨年の東北試走では三日間でダウン。苦しいけど走りもエイドも宿も何だかんだ楽しい。この思いを九州縦断にと、オープン参加させてもらいました。

今回の様な長いジャーニーランは初めてですが、走り終えてみると、スタート時のハラハラ下関、涙のゴール佐多岬、そして間違いだらけの街道一人旅の思い出がドンドン蘇ってくる。

長州藩の幕末の志士達が風雲の様に走りまくった(高杉晋作の墓・拳兵の寺等)歴史の街道を苦しみながら、目は歴史のしおり(説明書き)を見て楽しみ。関門海峡手前山の手高級住宅景色は最高(の軒下、間違っているとは知りながらくねくね。トンネルを抜けると門司の赤レンガ街、一日がアツと言う間に終わってしまう。

長崎街道起点常盤橋を振り出しに(道路元標日本橋は高速道路の下、街道姿は何処にあるのかズタズタの様な思いを感じ)、一九〇一年設立の八幡製鉄のモニュメントが、説明を受けなければ解るよう解らぬ筑豊のボタ山(小高い丘に草木が生えている為)等々。五三日目の短い二九キロでは、山鹿の八千代座の隣の「さくら湯」(松山の道後温泉の様)でハダ寒い朝から旅の疲れではないが、朝風呂に入ったり、想像出来ないメニュー。楽しい事ばかりではない、五五日目(今日の行程五九キロ、峠も有り、長い)の肥後・薩摩の県境、難所の三太郎峠も越え、気の緩みなのか、疲れ果てたのか、宿の出水迄九キロ辺り、ここで地図読みの出来る人と別れ、独自判断で出水へ。行けども行けども、ついにわけの解らぬ登山口、辺りは薄暗く、地図読み出来ぬ本末が、約一時間かけて引き返す。この道迷いで体力以上に、精神的に、そして寒さにはマイッタ。この思い出は佐多岬でゴールした時の、走り切った喜びで薄ら涙目で有ったのとは違った感動と思いが、寒さと不安で辿り着くのかと。

私の場合、地図読みはとても走りながら読めない、街道をはずしてとんでもない所へ、時にはズルも、だけど何だかやけに思い出として、楽しさが倍増してくれるのだから面白い。

いい「走り旅」だった、会話はなかったが(疲れはて、私だけが会話に参加出来なかったのか)、走る目的はみな同じ、宿では誰もが井飯を食べながら笑みを浮かべ、朝から井飯を何杯も、幸せそうに食べている。誰もが「幸せ」の顔だったのがいい思い出である。これからも走りを通して、いい仲間に出会える事を楽しみにしています。もっと輪も広げたい。

最後に、森塚さんありがとう。